

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 43 号

令和3年(2021年)
10月1日 発行



空いっぱいのうろこ雲（大阪市・淀川）

小説家の宇野千代さんが書かれたエッセイに「間違っても、巧いことを書いてやろう、とか、人の度肝を抜くようなことを書いてやろう、とか、これまでに、誰も書かなかった、新しいことを書いてやろう、とか、決して思ってはなりません」とありました。

『大悲』が創刊されて十年になります。『大悲』の原稿は日々の生活を通して感じ、我が身が照らされたお念仏の教えを、飾り立てた言葉ではなく、ありのままの言葉で書かなければならないと思っています。

しかし原稿担当になる度に十年も書いてきたという自負や、「この文章はいいね」と少しばかりちやほやされたい、という思いが混じり合います。そして「今回の文章は巧く書けた」と意気揚々と原稿を提出します。すると案の定、編集会議でコテンパンに打ちのめされる結果となってしまいます。

原稿を書く度に湧き出てくる私の本性に宇野さんの言葉が深く突き刺さります。

（玉出宗順）

う び がん 到 彼 岸



なぜ法事をお勤めするのか

かどかわ たかし
浄方寺 門川 崇志

ーの立場から、小中学生に「いのちの授業」をさせています。

日本の学校では、「いのち」について、ひとつは「生まれる尊さ」、もうひとつは「他のいのちをいただいて生きていく」という二つの側面から取り上げられることが多いそうです。

しかし佐々木氏は、「いのち」がこの二つだけにクローズアップされていることに違和感を持たれました。

死と向き合う大切さ

仏教では「いのち」のあり方を「生死^{しやうじ}」と説きます。「生まれる」や「生きる」だけではなく、「死ぬ」ことも、また大切な「いのち」のありのままのすがたなのです。

授業では、私たちの死との関わり方を三つの段階でお話しされます。死をどう考えるか（三人称の死）、死をどう見送るか（二人称の死）、これらが死と

いうものを考えるご縁となります。

そしてその経験を通して、一人称の死、すなわち私自身の死を考えることとなります。実はこの、自分の死と向き合うことこそが、まさに私がどう生きるか、本当の意味で生きるとはどういうことなのかを考える、大切なご縁となるのだと、子どもたちに伝えておられるということでした。

何が本当に大切な

考えてみれば、学校やテレビをはじめ、私たちが日常生活で死と向き合うご縁はほとんどありません。そんな中、法事をお勤めし、亡くなっていかれた方々と向き合うひとは、自分が「生きる」ということと向き合う貴重なご法縁なのだと知らされました。

（令和3年10月）

いのちの授業

NHKのEテレ「やまと尼寺精進日記」にご出演の佐々木慈瞳^{じとう}氏は、融通念仏宗の僧侶で、スクールカウンセラ



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

この世の利益きわもなし

大谷大学教授 一樂真師^{いちらくまこと}



令和3年7月5日、常光寺の第45回紫陽聞信会で、一樂

真先生に親鸞聖人の「南無阿彌陀仏となうれば この世の利益きわもなし」という現世利益和讃の中のお言葉をご講題にお話いただきました。

吉凶禍福からの解放^{きうきふくからんかいかく}

先生は、『仏説無量寿經』の「吉凶、禍福、競いて各之^{おののこれ}を作^なす。一として怪しむこと無し」というお釈迦さまのお言葉を紹介されました。都合のいいことを吉、福と呼び、それを

手に入れようとする。そして都合の悪いことを凶、禍と呼び、それを遠ざける。お釈迦

さまは、これが私たち人間の考える現世利益であるとお示しにされました。

そして、このような人間のありようを痛ましいことだとよびかけておられます。

浄土に向かう人生

「浄土に向かう人生が決まれば、今の生き方が変わります」と現世の利益、いまの私たちに与えられる利益を強調され

たのが親鸞聖人だとおっしゃいました。

親鸞聖人が「この世の利益きわもなし」とお説きになられた現世利益は、吉や福を手に入れる利益ではなく、あるいは凶と禍を取り除くことではなく、吉凶禍福を超えるということであります。

吉凶禍福を超えるとは、私たちの人生で考えてみれば、「老病死」は誰もが遠ざけたいと思うことですが、「老病死」は「生」がある限り避けられないことといただくこと、辛

いこと、思いどおりにならないことがあってもこれが我が人生と引き受けていく眼^{まなこ}が開かれてくるということです。そのような眼で人生に向き合っていく生き方が始まるということが、親鸞聖人がご和讃に「この世の利益」と味わわれたお心であるとお話しくださいました。

願いが見つかる

また、現世利益とは本当の願いがみつかることでもあると述べられました。

本当の願いとは、吉福を満たし、凶禍をなくすことではなく、往く先が決まれば、どのような人生であっても、誰とも代わりようのない人生と生き抜いていくことと聞かせていただきました。

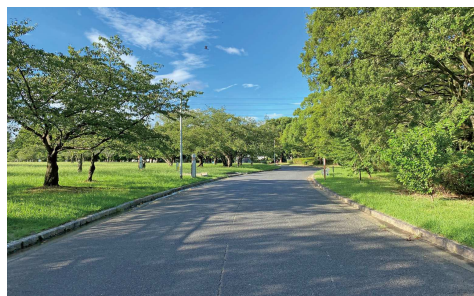
(佐々木太一 記)

大阪探検

おおいずみりょくち 大泉緑地



桜広場



周回コース



子どもたちの遊び場

【アクセス】

- ・大阪メトロ御堂筋線「新金岡駅」より徒歩約15分。
- ・普通車の駐車料金は、390円(平日1時間)～1330円(土日祝24時間)。

みんなの憩いの場

園内には、約200種類、32万本の緑豊かな木々が生い茂っており、かきつばた園やふれあいの庭(洋風庭園)、桜広場もあります。また、花と緑の相談所では、四季折々の展示会や、植物の相談も受け付けています。

堺市北区(一部松原市)にある大泉緑地は1941年に、服部緑地、鶴見緑地、久宝寺緑地とともに四大緑地として計画され、現在では都市にしながら森を満喫できる貴重なスポットとなっています。1972年に開設され、現在の敷地面積は京セラドーム大阪約30個分です。今では、防災上の広域避難所にもなっています。

これらの緑や花を楽しみながら、毎日たくさんの方々が、1周約3キロメートルの周回コースや、ウッドチップが敷かれた森の中を通る「樹の道」を散策されています。

さらに、子どもたちの遊び場や、テニスコート、野球場、スケートボード広場、サイクルどろんこ広場など老若男女を問わず楽しめます(一部有料)。また、持ち込んだり、現地購入したりしてバーベキューができるエリアもあります。

コロナ禍で……

コロナ禍の中、状況次第では種々の施設や駐車場が閉鎖されることもありますので、直前の利用状況をホームページでご確認ください。

(隅谷 俊紀)

ごえんさんを訪ねて

ぶつがんじ
仏願寺

(大阪市東住吉区)

ふじい よしまる
藤井 良丸 住職



8歳の時に、お父様が38歳で戦死。24歳で仏願寺の住職を継職された藤井良丸さん。半世紀にわたる、御自坊での熱心な聞法の活動は、いつも大阪教区をリードされてこられました。

直枉会結成

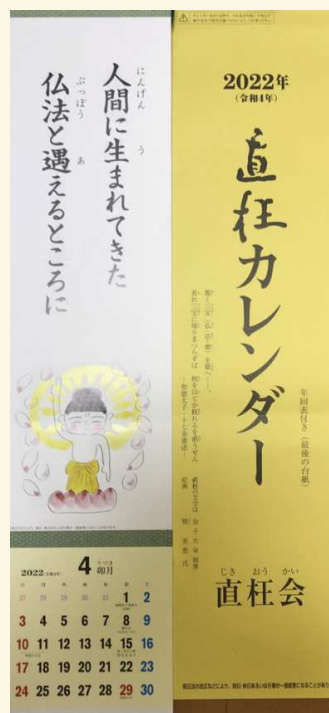
1961年、大阪在住の龍谷大学卒の学友を中心とした6人で、梯實圓師や稻城選恵師などの講師を招いて研修会を発足しました。聖徳太子の十七条憲法の「篤く三宝(仏・法・僧)を敬へ……。其れ三宝に歸りまつらずば 何を以てか枉れるを直うせん」から「直枉会」と命名されます。研修会を続ける中で、「法語を門徒さんに届けることが大切ではないか」との議論を経て、法語とその解説を400字にまとめたチラシをつくり門徒さんの葬儀の参列者に配布普及されてきました。

法語カレンダーの草分け

1970年よりカレンダーに法語を載せた『直枉カレンダー』を発行されました。

当初は2000部の発行部数から始まりですが、全国の真宗寺院から支持を集め、現在は17万部前後を発行するまでになり、法語カレンダーとしては草分け的存在として、大きな功績を残されています。

翌年のカレンダー作成に当たり、十二ヶ月分の法語を決めるのに、メンバー6人は年中機会あるごとに法語のもととなる言葉を考えておられるといえます。だいたい200前後



の法語の案の中から、十二ヶ月の法語が決められるそうです。藤井さんは「いつもアンテナを張って、思い

「直枉会」の発足以来のメンバーは藤井さん一人です。若手のメンバー宇野一教さんは、「藤井さんは、メンバーが提出した原案について、とても味わい深く表現してくださいます」と全幅の信頼を寄せておられます。余暇は囲碁と書道のお稽古にと、自らの研鑽に余念のないごえんさんです。

■仏願寺(ぶつがんじ)

〒546-0011

大阪市東住吉区針中野2-3-59

電話 06-6702-0994

Fax 06-6797-0235

大悲トピックス

■コロナ禍の大阪教区寺院奮闘記

大阪教区のお寺では、感染対策を施しながら、日常を取りもどそうと、新しい教化伝道の形を模索されています。

ズームアプリを利用して府県をまたいでオンライン法事の開催、佛光寺チャンネルなどのオンライン法話を視聴する聞法会、自宅での三密をさげ過去帳を持参していただいて本堂でのお盆法要、と教化活動に様々な工夫をされています。

大阪別院のお盆法要では、納骨されている方々を中心に例年並みの参詣者がありました。大雨の中、杖について参詣されたご門徒もおられ、葦名彰輪番は「お寺参り、お墓参りは不要不急の外出ではないと、そのお姿から教えられた」と報告されました。

また1組常光寺の「紫陽聞信会」(7月3〜5日)では、本堂内は20人と人数制限を行いなながらも、オンラインでの視聴は3日間通して多数の視聴があったそうです。コロナ禍の中、足を運べなくなった方々からは、「ぜ

ひ来年もオンラインで」という要望も出されたといひます。

今号の「到彼岸」にあるように、今こそ原点に返り、法事・法要を勤める意義をわかりやすく伝えることの大切さを実感します。

(長田 譲)

■「大悲」 発刊10周年を記念して

7名のメンバーで、真宗佛光寺派大阪教区・別院だよりの季刊発行を続け、10年を迎えます。

一つの区切りと新たなスタートの機縁にと、この間の『大悲』



の「巻頭」と「到彼岸」をまとめて掲載した編集者の法話集『大悲に照らされて』七人七色法話集』を出版しました。

(大悲の会一同)

■懇志御礼

三重県いなべ市 東光寺様

御本山 **近** 用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)
FAX (075) 371-5088

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー

株式会社 **石留石材**

ホームページ
<http://www.ishitome.co.jp>
本社:京都市中京区堀川御池角
TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑
寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

浜屋は関西最大級のお仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の専門店です。

やすらぎの世界を創る **浜屋**

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル

お問い合わせお申し込みは **0120-1616-94**
●受付時間/午前10時〜午後6時30分

人工芝施工・内外装工事・サイン・ディスプレイ・テント

Kyowa

協和産商株式会社

<https://www.kyowa-ss.co.jp/>
本社:大阪市東住吉区今川8-1-14
TEL:06-6702-5722 FAX:06-6702-5732

お墓なんでも相談センター

永遠の想いを像に還るお手伝い

ヨシザワ

株式会社 吉澤石材工業所

フリーダイヤル **0120-49-1482**

だいひ 絵日記

- 7月20日(火) 大悲の会編集会議(第43号読み合わせ)(オンライン会議)
 8月3日(火) 大悲の会編集会議(第43号読み合わせ)(オンライン会議)
 8月13日(金) 大阪別院孟蘭盆会(～15日)①
 8月24日(火) 大悲の会編集会議(第43号読み合わせ)(オンライン会議)
 9月20日(月) 大阪別院彼岸会(法話：隅谷 俊紀 師)
 9月23日(木) 大阪別院彼岸会(法話：葦名 彰 師)
 9月26日(日) 大阪別院彼岸会(法話：玉出 宗順 師)
 9月29日(水) 大悲の会編集会議(第43号発送作業・第44号内容検討)



— 法語をご家庭に —
直枉カレンダー
 〒546-0011
 大阪市東住吉区針中野2-3-59
 仏願寺 藤井良丸
 TEL. 06-6702-0994
 FAX. 06-6797-0235

沙羅
 寺院コム
<http://jiin.com>

仏跡参拝なら専門旅行会社にお任せ下さい!!
 ～歩もう仏陀の道のりを～
 株式会社 **モントラベル**
 〒550-0013
 大阪市西区新町1-8-1 行成ビル
 お気軽にお問い合わせください
 TEL. 06-6531-1344

協 賛
佛青懇和会
 大阪教区の青年会
 (会長：門川崇志)

協 賛
さつき会
 大阪教区の坊守会
 (会長：木村愛子)

協 賛
法友会
 大阪教区の住職会
 (会長：佐々木太一)



どなた様でもお参りいただけます
法要・法話会のご案内



本山佛光寺茶所布教

毎日午前 7 時半

※大阪教区布教使の担当は下記の通りです

10 月 21 日（木）～ 25 日（月）

法話：脇阪 義仁 師（霊松寺）

12 月 11 日（土）～ 15 日（水）

法話：葦名 彰 師（妙圓寺）

12 月 16 日（木）～ 20 日（月）

法話：門川 崇志 師（浄方寺）



大阪別院 報恩講
10月27日（水）午後2時より
本年は新型コロナウイルス感染症の
拡大を考慮して「内勤め」とさせていただきます

編集秘話

『大悲』創刊 10 年となります。改めて『大悲』を読んでくださる皆さま、そして一緒に編集に関わった法友に感謝すると共に、これからも仲間内の居心地の良い関係性に留まることなく、互いに刺激と尊厳を持ち続けたいと思います。そして原稿は読みやすく、平易な言葉で綴ることを心がけたいです。（玉出）

編集後記

今回は「大阪探検」を担当しました。「大泉緑地」は、うちの「庭」で、毎朝のウォーキングコースでもあります。来年の春には、皆が「桜広場」に集まってお花見ができるといいですね。★大悲の会 7 名による「今を生きる」法話集『大悲に照らされて ～七人七色法話集～』を出版しました。ホントに七人七色です。（編集長・隅谷）

大阪教区・別院だより『大悲』 第 43 号（秋号）
令和 3 年（2021 年）10 月 1 日発行（発行部数 2200 部）
発行：大悲の会
事務所：佛光寺大阪別院内
〒558-0011 大阪市住吉区荻田 6-11-24 電話 06-6691-1362
郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」
大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会
長田 譲（会長） 佐々木 太一
隅谷 俊紀（副会長） 葦名 彰
寿栄松 正顕（会計）
玉出 宗順（会計）
門川 崇志（監事）